

「生命に特許はいらない！」キャンペーン

2005年9月通信

カトリック 聖コロンバン会
マッカーティン・ポール

皆様、ご無沙汰しておりますが、お元気でお過ごしのことと存じます。

「生命に特許はいらない！」キャンペーンのお知らせをお送りしてから2年が経過致しました。この間にも、新聞・テレビ等で、毎日のように遺伝子組み換え作物・食品やバイオ関連等の報道があります。それぞれは、別個のものとして私たちは、記事を読んでいると思います。しかし、これらは、特許・知的所有権の問題に関連するものとなります。

これらを踏まえてこの間の活動状況などを皆様へお知らせしたく、お手紙をお出し致します。今後も、不定期になりますが「通信」という型で送付する予定です。またこの度このキャンペーンがもっとよく分かるポスターを作成致しました。ぜひご覧頂きたく同封致しますので宜しくお願い致します。

キャンペーンは、

27.3(b)を生命特許を認める法律が必要ないように変更する

世界貿易機関(WTO)は知的所有権の貿易関連の側面に関する協定(TRIPS)の27.3(b)を通じて、WTO加盟各国に「生命特許」を認める制度を押し付けようとしています。

(参考 <http://organization.at.infoseek.co.jp/wto/trip/tripj27.htm>)

1 住所変更

今年の1月に長野県駒ヶ根市より下記へ

〒158-0098 東京都世田谷区上用賀 4-1-10 聖コロンバン会

☎ 03-3427-9427

fax 03-3439-7792

email noseimeitokkyo@r01.itscom.net

2 活動の状況

講演会

現在各方面へ「講演会」の依頼をお願いしています。全国どこでも依頼があればお伺いをしています。現在は、カトリック

教会の関係が多数を占めています。まだまだ反応は、少ない状態です。皆様ご自身または、お知り合いで、関心のある方がいらしたら、ご連絡ください。

メディアへの掲載

講演会と同様に各方面へ掲載のお願いを送付や連絡をしています。これまでの掲載は、「JP 通信」、「カトリック生活」、「カトリック新聞」などです。2005年4月にNHK衛星放送にドイツ制作の「問われる遺伝子組み換え食品」という番組が報道されました。とても面白い番組でした。テープに録画しました。それから札幌テレビ放送の「大地の選択 ～遺伝子組み換え論争～」という番組のテープも手に入りました。これには北海道で有機栽培しているアメリカ人の農家が出ます。

資料

展示用の「イラスト・パネル」が完成しています。(現在 22 枚)
→ご希望があれば貸出も可能です。
→イラストの CD も用意しました。
アメリカの「英文ビデオ・テープ」「英文書籍」も収集中です。
→和訳も今後作成したいと考えています。

海外での動き

カトリック聖コロンバン会(本部アイルランド)が活動している世界各国を含め、日本と同じような活動を行っています。
ローマ法王庁(バチカン)において、遺伝子組み換えは、世界に広がる飢餓や飢饉の解決の方法と容認する方々もいるため、考えの変更のロビー活動も行っています。

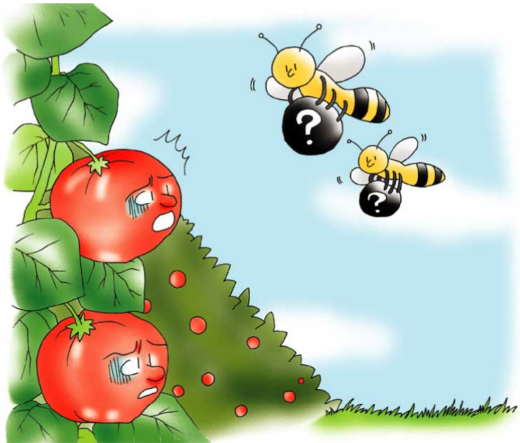
ご支援のお願い

このキャンペーンの賛同人・賛同団体も募集しております。
また、書籍(2,200円) 冊子(400円) 送料込み、ちらし ポスターも用意しています。
物心両面での活動の援助をよろしくお願い致します。
皆様のご連絡をお待ちしております。

「生命に特許はいらない！」キャンペーンの要旨

- 企業は遺伝子組み換え食品や遺伝子組み換え薬品を造っています。
そのため、遺伝子に特許を設定します。
- 遺伝子は生命の基礎的な成分で、遺伝子に特許を設定するのは生命に特許を設定することになります。これは生命を企業製品、商品にすることになります。
- 宗教の立場からでは、神様が生命を創るのです。企業ではありません。
生命を企業の所有物にしていいでしょうか。教皇はしてはいけないとおっしゃいます。
- 特許によって（数少ない）企業が全世界の食品の種を支配することになります。
- 検査していないため、遺伝子組み換え食品は安全かどうか分かりません。
- 花粉によって遺伝子組み換えでない植物は汚染されて遺伝子組み換え植物になります。
- 特許をもっている会社が汚染された農家を裁判所で訴えることがあります。
- 企業は遺伝子組み換え作物や生物を使って、医薬品やワクチン、プラスチック製品、そして堕胎を促進する化学物質などさまざまな化学物質を作り出そうとしています。
（バイオ医薬品＝生物医薬品）
- 企業が研究者を貧しくさせられた国々へ派遣してその植物、微生物、人間の遺伝子のサンプルを盗んでそれを利用して遺伝子組み換え食品や遺伝子組み換え薬品を作って大変儲かっています。
- 会社が乳癌の原因となる遺伝子に特許を設定して、イギリスでは乳癌の検査を受ける時に会社に特許料を払わなければならないため、検査の料金が高くなっています。
- 製薬会社や保健当局は、遺伝子を組み換えた豚や人間以外の霊長類などの動物を、臓器や細胞を人間に移植する「ドナー」として使うことを提案しています。（異種移植）
- 科学者は人間の遺伝子を動物に組み換えています。その動物はいつ人間になるかという問題が出て来ます。
- 体外受精から残った受精卵を利用して胚性幹細胞を作ってそこから遺伝子を取って病人に組み換えることがあります。生きている受精卵をこういうふうを利用していいでしょうか。
- 受精卵をわざと作って（残った受精卵を使わない）クローンを作る研究もしています。近いうちに、好みの赤ちゃんを作るために例えば頭のいい東大の教授の遺伝子、あるいはオリンピック選手の遺伝子を買って自分の受精卵に組み換えてもらう時が来ます。しかし、遺伝子を買えるのは金持ちだけで人類は二つに分かれてくるでしょう：超人間と普通人間。
- 出生前診断で赤ちゃんに病気の遺伝子が見つかったら保険会社は両親に赤ちゃんを下ろすことを進めます。病気の遺伝子を持っているため、保険加入を拒否します。
- 世界貿易機関（WTO）は知的所有権の貿易関連の側面に関する協定（TRIPS）を通じて、世界のすべての国々に生命特許を認める制度を押しつけようとしています。

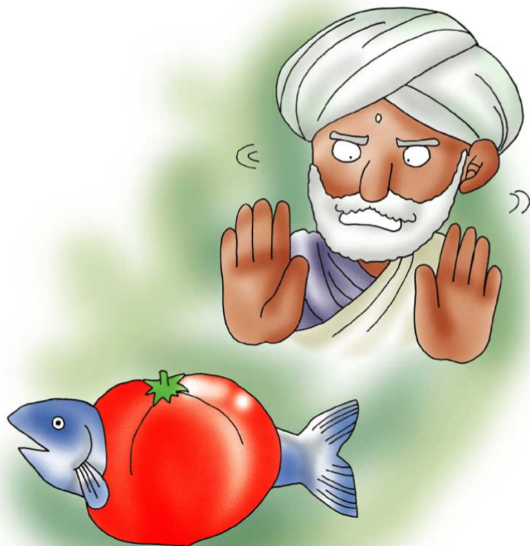
イラスト・パネルの実例：



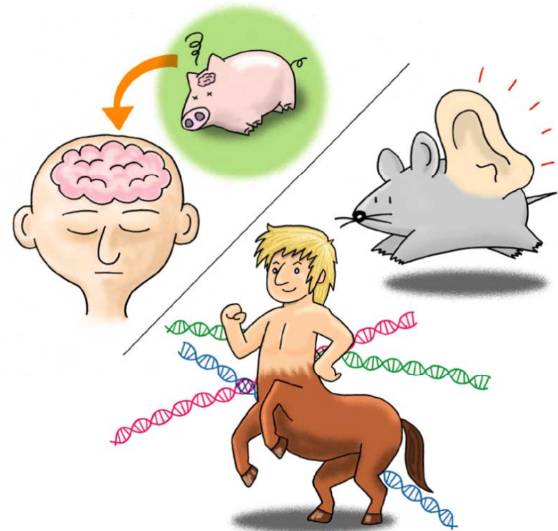
現在、世界中でたくさんの農家が遺伝子組み換え品種のトウモロコシ、大豆、小麦、菜種、トマト、ジャガイモ、綿などを栽培しています。遺伝子組み換え植物を栽培していると、その花粉が風や虫に運ばれて拡散し、従来品種（遺伝子組み換え品種でない）と交配して、知らないうちに従来品種を遺伝子組み換え品種に変えてしまうことがあります。全世界の主食作物（小麦、米、トウモロコシ、大豆など）が遺伝子組み換え品種に変わってしまい、従来品種が消えてしまう可能性があるのです。また、遺伝子組み換え品種は数が少ないため、生物の多様性も失われる可能性があります。こうした変化はどのような影響を及ぼすでしょうか？これを食べた人間や動物はどうなるのでしょうか？



特許を持つ会社が、畑で栽培していた従来品種の作物が近隣の畑で栽培されていた遺伝子組み換え品種と自然交配してしまった農家を、自社品種を勝手に栽培した、つまり知的所有権を侵害したとして起訴した例もあります！



魚の遺伝子が組み込まれたトマトや、細菌の遺伝子が組み込まれたジャガイモなども開発されています。ヒンドゥー教徒などの菜食主義者はこのような野菜を食べられません。



企業は遺伝子組み換え作物や生物を使って、医薬品やワクチン、プラスチック製品、そして堕胎を促進する化学物質などさまざまな化学物質を作り出そうとしています。2002年、生物医薬品を生産するために遺伝子を組み換えられたトウモロコシが、食品として栽培されている従来品種の大豆を汚染しているのが見つかりました（前年作の種が畑に残っていたため）。